

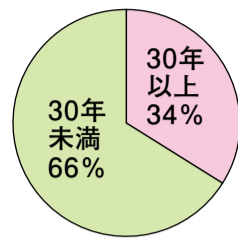
# —秦野市は、「公共施設の再配置」に取り組みます。—

「秦野市公共施設の再配置に関する方針 “未来につなぐ市民力と職員力のたすき”」(2011-2050年)

「秦野市公共施設再配置計画 第1期基本計画」(2011-2020年)

① 秦野市は、昭和40年代から50年代にかけて、ベッドタウンとして人口が急増しました。

学校を中心としたハコモノと呼ばれる公共施設の多くは、この頃一斉に建設しましたが、一斉に建設した建物は一斉に老朽化し、一斉に更新の時期を迎えます。

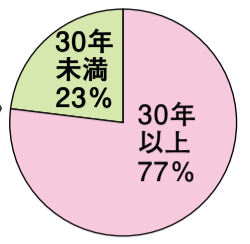


《平成20年》  
2008年

## 【築30年以上の建物面積の推移】

築30年以上の建物の割合は、2倍以上になり、一気に老朽化が進みます。

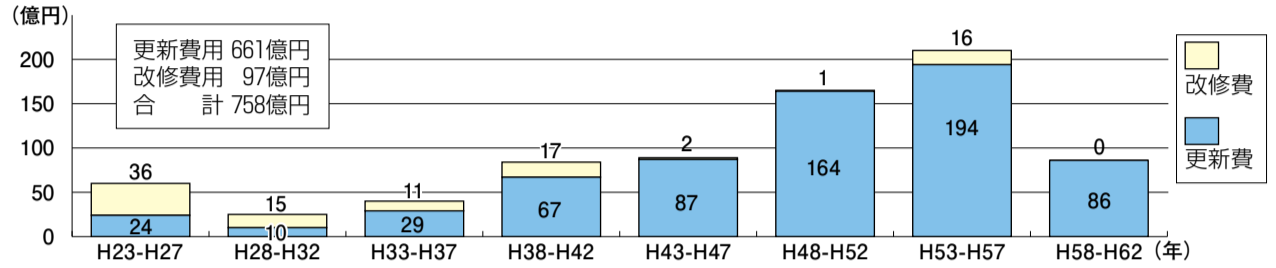
《平成30年》  
2018年



② すべてのハコモノを維持しようとすると、今後40年間では、小中学校を児童生徒数の減少に合わせて縮小しても、大規模改修と更新費用に750億円以上が必要となります。

特に、ピークとなる平成48(2036)年以降の10年間では、年平均36億円の事業費が必要になります。

## 【今後40年間の建物改修・更新費用の推移】

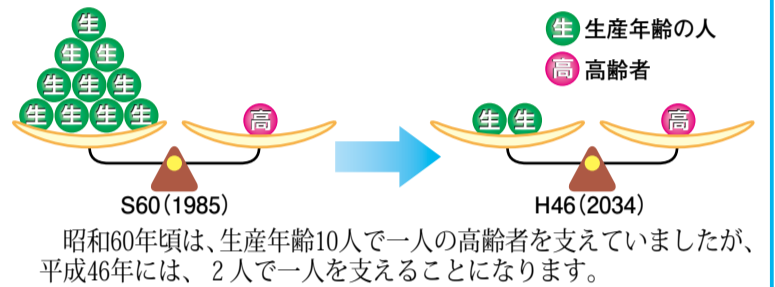


③ ハコモノの老朽化に合わせてるように、高齢化と人口減少が進みます。平成46(2034)年には、人口はおよそ16万人(-1万)、生産年齢人口(※)は9.6万人(-2万)に減少します。

生産年齢人口は、昭和60(1985)年頃と同じ数になりますが、当時のハコモノ面積は、現在の3分の2でした。(※ 15歳以上65歳未満の人口)

区分年	総人口(人)	生産年齢人口(人)	高齢者人口(人)	ハコモノ面積(m <sup>2</sup> )
S60(1985)	142,000	96,000	9,000	210,000
H21(2009)	170,000	116,000	33,000	310,000
H46(2034)	160,000	96,000	49,000	?

## 【人口等の推移と今後の推計】



昭和60年頃は、生産年齢10人で一人の高齢者を支えていましたが、平成46年には、2人で一人を支えることになります。

現在のハコモノを全て維持しようとすると、この先40年間の**財源不足は、346億円**に達すると試算しましたが、現在の市民の豊かさや便利さだけに目を向けて結論を先送りすれば、小中学校のような大切な施設も維持できなくなる恐れがあります。

そこで、私たち現在の市民は、次の方針に基づき「公共施設の再配置」を進め、将来にわたり**必要性の高い施設サービスを持続可能なものにする**必要があります。

## 秦野市公共施設の再配置に関する方針

“未来につなぐ市民力と職員力のたすき”

### 方針2 施設更新の優先度

次表の優先度に従い、更新する施設の機能を決定

優先度	施設の機能
最優先	義務教育 子育て支援 行政事務スペース
優先	客観的評価で決定
その他	上記以外

### 方針1 基本方針

- ① 新しいハコモノは建設しない(更新を除く)
- ② 現在のハコモノは優先順位を付けて圧縮
- ③ 優先度の低いハコモノは売却・賃貸
- ④ ハコモノは一元的にマネジメント

### 方針3 数値目標

機能をできるだけ維持しながら、次表の割合で更新面積を削減

	小中学校	その他	計
H23-32	(※)900m <sup>2</sup>	-2,200m <sup>2</sup>	-1,300m <sup>2</sup>
H33-42	-1,400m <sup>2</sup>	-5,100m <sup>2</sup>	-6,500m <sup>2</sup>
H43-52	-15,200m <sup>2</sup>	-13,300m <sup>2</sup>	-28,500m <sup>2</sup>
H53-62	-26,500m <sup>2</sup>	-9,600m <sup>2</sup>	-36,100m <sup>2</sup>
合計	-42,200m <sup>2</sup>	-30,200m <sup>2</sup>	-72,400m <sup>2</sup>
	-26.2%	-43.2%	-31.3%

※体育館の建替えにより増加します。

### 方針4 再配置の視点 次の5つの視点で公共施設の再配置を推進

視点1 「備えあればうれいなし」 将来を見据えた施設配置を進めます	視点2 「三人寄れば文殊の知恵」 市民の力、地域の力による再配置を進めます	視点3 「三方一両得」 多機能化等によるサービス向上と戦略的経営を進めます	視点4 「無い袖は振れぬ」 効率的・効果的な管理運営を進めます	視点5 「転ばぬ先の杖」 計画的な施設整備を進めます
<b>キーワード</b> 施設と機能の分離など	<b>キーワード</b> 積極的な施設情報の発信など	<b>キーワード</b> 複合化による共用面積削減など	<b>キーワード</b> 公民連携と適切なマネジメントなど	<b>キーワード</b> スケルトン方式による建替えライフサイクルコスト減など

方針に基づき**第1期基本計画(H23(2011)年～H32(2020)年)**を定めました。  
計画期間内に**1,340m<sup>2</sup>のハコモノ面積と57億円の管理運営費用を削減**します。

前期実行プラン(H23(2011)～H27(2015)年)の期間内に**4つのシンボル事業**を実施し、「公共施設の再配置」は、一概にサービス低下を招くものではないことをアピールします。

**シンボル事業①**  
西公民館と西中学校体育館などを複合化した施設を建設します。

**シンボル事業②**  
保健福祉センター内に郵便局を誘致し、証明書発行業務も行います。

**シンボル事業③**  
児童館などの小規模施設を地域に移譲するとともに、自治会館の開放を支援します。

**シンボル事業④**  
民間の力を借りて福祉施設や保育園などを運営し、サービス内容を充実させます。

**より低い税の負担でより高いサービスの実現を目指すとともに、持続可能な施設サービスと安心・安全な暮らしを将来の市民に届けます。**

計画の詳細は、ホームページ (<http://navi.city.hadano.kanagawa.jp/koukyousisetu/index.html>)、図書館、各公民館、市役所情報コーナーで閲覧できます。また、計画書は、市役所前のコンビニエンスストアで販売(A4版カラー印刷 1部1,000円)しています。

このページの内容に関する問い合わせ先：公共施設再配置推進課 電話82-5122 E-Mail: koukyousisetu@city.hadano.kanagawa.jp